

# 地方の誘致政策が運動部の合宿先選定に 及ぼす影響について

本研究の目的は、地方自治体やスポーツコミッションによる合宿誘致政策と、運動部における合宿先選定との関係を明らかにし、地域活性化にどのような影響を与えているのかを解明することである。この研究目的を達成するために、調査対象者として大東文化大学体育会剣道部前主務 A 氏、および那須塩原スポーツコミッションの B 氏にヒアリング調査を行った。A 氏とは対面形式で、B 氏とは zoom をつなぎ、合宿地選定の条件や合宿誘致政策の内容などについて聞き取りを行った。

比較分析の結果、合宿地選定を選定するには、施設や環境整備といったハード面が前提条件としてあるが、そのうえでソフト面の運営支援やサポート体制が最終的な意思決定を後押ししていることが明らかとなった。また、長期戦略や地域ブランドの形成は、継続的な利用や新規団体の利用に影響を及ぼし、スポーツ合宿が地域活性化につながると考えられる。

以上のことから、地方自治体の合宿誘致政策は、ハード面・ソフト面・長期戦略の3要素が互いに作用することで合宿者側の合宿地選定に影響を与え、安定的かつ持続的な合宿誘致を行うことが可能となる。課題として、設立2年目とデータが少なく合宿誘致がもたらす地域活性化への効果を断言することはできないが、これらの施策は地域活性化につながる可能性が高い政策であると考えられる。

本研究の意味付けは、地方自治体の合宿誘致政策を運動部の合宿地選定という意思決定の視点から分析し、特にソフト面の運営支援が重要な役割を果たしていることを明らかにしたことである。また、スポーツ合宿を短期的な取り組みではなく、長期的な誘致政策と地域ブランド形成を通じた持続的な地域活性化施策として位置づけたことである。